様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 １５ 日現在

機関番号：３２６８６
研究種目：基盤研究(A)（海外学術調査）
研究期間：2012～2016
課題番号：２４２５１０１９

研究課題名（和文）動物殺しの比較民族誌研究

研究課題名（英文）Comparative Ethnographic Study on Killing Animals

研究代表者
奥野　克巳（OKUNO, Katsumi）

立教大学・異文化コミュニケーション学部・教授

研究者番号：５０３１１２４６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　23,900,000円

研究成果の概要（和文）：本科研は、人間と動物の関係の中でも際立った局面である「動物殺し」に焦点をあてて、狩猟民・牧畜民・農耕民などの様々な生業形態に生きる人々を取り上げて、地球上の各地で人類学的なフィールドワークを行い、そのようにして得られたフィールドデータを先行諸文献に照らして民族誌として記述し、動物殺しの民族誌の比較検討を行った。

研究成果の概要（英文）：This study group conducted study on "killing animals", a remarkable aspect of the relation between human and animals around the world, focusing on varied subsistence system such as hunting-and-gathering, herding and farming, by especially depending on comparative ethnographic method based on anthropological fieldwork.

研究分野：文化人類学

キーワード：人類学　民族誌　人間と動物　動物殺し

１．研究開始当初の背景
科研費・基盤研究 B（海外学術調査）『人間と動物の関係をめぐる比較民族誌研究：コスモロジーと感覚からの接近』（平成 20 年度～23 年度、代表：奥野克巳）の成果と展望・課題を引き継ぐかたちで、人間と動物の関係に見られる際立った局面である「動物殺し」に焦点を当てて、「動物殺しの比較民族誌研究」という研究課題で研究を開始した。

２．研究の目的
(1)動物殺しとは、食用としたり、供犠したりする際の家畜だけでなく、狩猟時に、野生動物に対して行われるものであり、それには、生存のために、または、商業目的のためのものがある。殺し方には、撲殺、銃殺、毒殺、突き殺し、大量殺害などがあり、また、苦しまない殺し方、いたぶり殺しなど、様々な殺し方がある。
(2)海外におけるメンバーの調査対象地においてフィールドワークを行って、その具体的状況、方法、背景、目的、頻度などを観察し、記録することを出発点とし、データを先行文献などに照らして作成した民族誌を持ち寄って、比較民族誌的な研究を行うことを、本研究の目的とした。

３．研究の方法
(1)本研究では、文化人類学、生態人類学、霊長類学を専門とする研究メンバーが、海外におけるそれぞれの研究対象地において、動物殺しに関して、参与観察と記録を繰り返しながら、実地でのデータを幅広く蒐集して、それらを、とりわけ、①生物学的要因、②生業・経済的要因、③表象的要因という三次元に拠りながら、綿密な民族誌の中に記述・考察した。
(2)個々のメンバーの民族誌記述・考察の途中経過や研究成果を、①研究メンバーを中心として相互に比較・検討し、②公開シンポジウム/セミナーや成果出版など機会を利用して、関係諸領域の研究者・一般の方々からの評価・コメントを受けながら、全体としては、動物殺しをめぐって、総合的な比較民族誌研究を進めた。

４．研究成果
本科研の主題との関わりでの成果出版としては、①奥野克巳・山口未花子・近藤祉秋共編『人と動物の人類学』（2012 年、春風社）、②シンジルト編『狩猟の民族誌：熊本南部における生業・社会・文化』（2014 年、熊本大学文学部総合人間学科社会人間学コース狩猟調査チーム）、③エドゥアルド・コーン著、『森は考える：人間的なるものを超えた人類学』奥野克巳・近藤宏共監訳、近藤祉秋・二文字屋脩共訳（2016 年、亜紀書房）、④シンジルト・奥野克巳共編著『動物殺しの民族誌』（2016 年、昭和堂）、⑤野田研一・奥野克巳共編著『鳥と人間をめぐる思考：環境文学と人類学の対話』（2016 年、勉誠出版）が挙げられる。これらの成果は、人類学周辺で広く引用されるものとなっており、またこれらの研究を「マルチスピーシーズ（複数種）」という枠組みのもとに、今後研究をさらに発展させていく予定である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 33 件）

①奥野克巳　「森は考える」を考える――アヴィラの森の諸自己の生態学、査読無、2016、『現代思想』臨時 3 月増刊号「人類学のゆくえ」 2016―3 ： 214－225
②山口未花子　動物を夢見る：北方狩猟民カスカにおける動物への畏れから見る対称性、査読無、2016、『現代思想』臨時 3 月増刊号「人類学のゆくえ」2016―3: 226-234
③大石高典　フィールドにおける模倣と笑い―熱帯雨林の中のコメディ映像の事例―、査読無、2016、『立命館言語文化研究』27(4)：79-86
④大石高典　ゾウの密猟はなぜなくならないか―カメルーンにおける密猟取り締まり作戦と地域住民―、査読無、2016、阿部健一・竹内潔・柳澤雅之（編）『森をめぐるコンソナンスとディソナンス－熱帯森林帯地域社会の比較研究』CIAS Discussion Paper Series, No. 59. 京都大学地域研究統合情報センター）15-21
⑤大石高典　ゴリラから読み解くカメルーン：狩猟と農耕の相関性、査読無、2016、福田宏・柳澤雅之（編）『せめぎあう眼差し：相関する地域を読み解く』CIAS Discussion Paper Series, No. 56. 京都大学地域研究統合情報センター学地域研究統合情報センター、56 ： 23-30
⑥近藤祉秋　野生生物管理の民族誌にむけて―ポール・ナダスディ著『猟師と官僚』を読む、査読無、2016、『早稲田大学文学学術院文化人類学年報』10: 13-19
⑦山田仁史　カニバリズムの内的論理を犀利に分析（書評『インディオの気まぐれな魂』）、査読無、2016、『図書新聞』3429: 3
⑧奥野克巳　飢え、食べ、排泄する――狩猟採集民の食行動をめぐる民族誌、査読有、2015、『社会人類学年報』41: 1―23
⑨島田将喜　動物は動物を殺すか―野生チンパンジーと他動物のインタラクションを翻訳する、査読有、2015、『文化人類学』80(3): 386-405
⑩ Ikeda, Mitsuho and Michael Berthin Epicurean Children: On interaction and "communication" between experimental animals and laboratory scientists.査読無、2015、Communication-Design 12: 53-75
⑪大石高典　《この木を伐ったらたたるぞ

よ》―現代に生きる環境への信頼と〈アニミズム〉、査読無、2015、鎌田東二編『講座スピリチュアル学第4巻・スピリチュアリティと環境』ビイング・ネット・プレス、4: 201-225
⑫山田仁史　人身供犠は供犠なのか？、査読無、2015、『ビオストーリー』23: 32-39
⑬Yamada, Hitoshi　Brother pairs and twin brothers in Japanese and Circumpacific legends and tales: Possible reflection of the hunting-fishing worldview、査読無、2015、Shinoda, Chiwaki(ed), Mythes, symboles, rites, II, Chiba: Rakuro　2: 337－352
⑭奥野克巳　歩く家、告げ口する動物たち：非人間の主体性をめぐる文化人類学、査読無、2015、『異文化コミュニケーション論集』13: 35-53
⑮ Oishi, T., Hagiwara, M.　A preliminary report on the distribution of freshwater fish of the Congo river: Based on the observation of local markets in Brazzaville, Republic of the Congo、査読無、2015、African Study Monographs, Supplimentary Issue　51：93-105
⑯近藤祉秋　北方樹林の愛鳥家ー内陸アラスカにおける動物を殺す／生かすこと、査読有、2014、『文化人類学』79(1): 48-60
⑰西本太・金子聰・蒋宏偉・門司和彦　ラオスの保健人口サーベイランスシステムからみたラオスの人口転換、査読無、2014、『民族衛生』80: 54-59
⑱ Oishi, Takanori　Sharing hunger and sharing food: Staple food procurement in long-term fishing expeditions of Bakwele horticulturalists in southeastern Cameroon、査読無、2014、African Study Monographs, Supplimentary Issue　49: 59-7
⑲ Oishi, Takanori and HAYASHI, Koji From ritual dance to disco: Change in habitual use of tobacco and alcohol among the Baka hunter-gatherers of southeastern Cameroon、査読無、2014、African Study Monographs, Supplimentary Issue　47：143-163
⑳大石高典　中部アフリカ都市住民の動物性タンパク質源確保と都市＝漁村関係 ―コンゴ共和国におけるコンゴ川産淡水魚の流通・消費を事例に―、査読無、2014、『生態人類学会ニュースレター』　19: 13-14
㉑奥野克巳　第三のジェンダーの比較研究、査読無、2013、『性とこころ』5: 42-53
㉒片岡樹、シンジルト、山田仁史　アジアを疑いつつアジアを理解するために、査読無、2013、片岡樹、シンジルト、山田仁史共編著）『アジアの人類学』春風社、i-x
㉓シンジルト　牧畜にみるアジア：生業・思考・国家、査読無、2013、片岡樹、シンジルト、山田仁史共編著）『アジアの人類学』春風社、73-106
㉔ Oishi, Takanori　Human-Gorilla and Gorilla-Human: Dynamics of Human-animal boundaries and interethnic relationships in the central African rainforest,査読無、2013、Revue de primatology (https://primatologie.revues.org/1881)5:19
㉕大石高典　熱帯の狩猟採集民研究の現在－2 つの狩猟採集民会議（ICCBHG と CHAGS10）に参加して、査読無、2013、『日本熱帯生態学会ニューズレター』（Tropical Ecology Letters）93: 2-12
㉖シンジルト　伸縮する遠近：モンゴル=キルギス人の現在、査読無、2013、『共在の論理と倫理：家族・民・まなざしの人類学』247－270
㉗大石高典　放送大学放送教材の素材映像アーカイブ化―特別講義『HUMAN：人間・その起源を探る』ラッシュ映像のアーカイブ化をもとに―、査読無、2013、『放送大学研究年報』30: 63-75
㉘林耕次、大石高典　狩猟採集民バカの日常生活におけるたばこと酒―カメルーン南東部における貨幣経済の浸透にともなう外来嗜好品の流入―、査読無、2012、『人間文化: Humanities and Sciences』30: 29-43

〔学会発表〕（計 45 件）

①近藤宏　構成される身体、京都人類学会 3 月例会、京都大学（京都府京都市）、2016-03-25
②池田光穂・大石高典　ショロ犬とわたしたち：狗類学からのアプローチ（1）、ヒトと動物の関係学会第 22 回学術大会、東京大学弥生講堂（東京都文京区）、2016-03-06
③大石高典・池田光穂　カメルーン東南部におけるハンターと犬の関係―狗類学からのアプローチ（２）：犬の視点から狩猟採集社会を描く民族誌の試み、ヒトと動物の関係学会第 22 回学術大会、東京大学弥生講堂（東京都文京区）、2016-03-06
④Kamgaing Olivier William TOWA, Takanori Oishi　Baka Hunter-gatherers in Southeast Cameroon: Hands of Poaching and Eyes for Anti-poaching Activities,Beyond Enforcement: Involving Indigenous Peoples and Local Communities in Combating Illegal Wildlife Trade: Regional workshop for West and Central Africa, TRAFIC, Douala（Cameroon）, 2016-02-24 – 02-25
⑤近藤祉秋　来たるべき過去に備えて：アラスカ・アサバスカン社会における生存、生業、リーダーシップ、早稲田文化人類学会第 17 回総会、早稲田大学戸山キャンパス（東京都新宿区）、2016-01-30
⑥奥野克巳　アニミズムからロボットを考える：マルチスピーシーズ民族誌の可能性、第 79 回日本心理学会・公募シンポジウム「感じてしまう不思議：文化とロボットから探るアニミズム」（分科会代表：伴碧・高橋秀之）、

名古屋国際会議場（愛知県名古屋市）、2015-09-21
⑦Shiaki Kondo Saving Birds Left Behind: An Ethnography of Avian “Domestication” in Interior Alaska,The 11th Conference on Hunting and Gathering Societies, University of Vienna, Vienna(Austria), 2015-09-10
⑧Gen Tagawa Women's Sexuality in the Patriarchy of the Borana-Oromo,19th International Conference of Ethiopian Studies, University of Warsaw, Warsaw(Poland), 2015-08-26
⑨Hitoshi, Yamada caranke: Speech Duel of the Ainu as a Source of Power, 9th Annual International Conference on Comparative Mythology, Nicolaus Copernicus University, Torun(Poland), 2015-06-11
⑩奥野克巳　プナンのイヌ―人の道具でもあり、人に近い非人間「プナンのイヌ―人の道具でもあり、人に近い非人間、第 49 回日本文化人類学会研究大会・分科会「文化空間において我々が犬と出会うとき―狗類学（こうるいがく）への招待」（分科会代表：池田光穂）、大阪国際センター（大阪府大阪市）、2015-05-31
⑪池田光穂　独自なるものとしてのショロイツクイントゥリ犬、第 49 回日本文化人類学会研究大会・分科会「文化空間において我々が犬と出会うとき―狗類学（こうるいがく）への招待」（分科会代表：池田光穂）、大阪国際センター（大阪府大阪市）、2015-05-31
⑫山田仁史　犬肉食をめぐるタブーとアイデンティティ、第 49 回日本文化人類学会研究大会・分科会「文化空間において我々が犬と出会うとき―狗類学（こうるいがく）への招待」（分科会代表：池田光穂）、大阪国際センター（大阪府大阪市）、2015-05-31
⑬大石高典　カメルーンの狩猟採集民バカと犬、第 49 回日本文化人類学会研究大会・分科会「文化空間において我々が犬と出会うとき―狗類学（こうるいがく）への招待」（分科会代表：池田光穂）、大阪国際センター（大阪府大阪市）、2015-05-31
⑭中野麻衣子　反転像として立ち上がる「真の英雄」像：認定取り消しを求められたバリ人国家英雄をめぐって、第 49 回日本文化人類学会研究大会・分科会「「国家英雄」認定に見る地方と民族の現在」（分科会代表：山口裕子）、大阪国際交流センター(大阪府大阪市)、2015-05-30
⑮島田将喜　チンパンジー「狩猟」論再考：「狩猟＝ゲーム」仮説、日本アフリカ学会第 52 回大会、犬山国際観光センターフロイデ（愛知県犬山市）、2015-05-23
⑯ Mikako, Yamaguchi Part of the moose :Maintainin continuity between the Kaska and animals through hunting activity, JSAC-JACS-JCIRN International Conference in Tokyo, カナダ大使館(東京都港区),2015-05-20
⑰Shiaki Kondo A Hunt Chief of the 21st Century: Spirituality, Survival and Social Organization in Nikolai, Alaska, Alaska Anthropological Association Annual Meeting, アンカレジ・ホテルヒルトン, アンカレジ(USA), 2015-03-05
⑱Oishi, T., Kamgaing, OWT, Yamaguchi, R., Hayashi, K. Anti-poaching operations by military forces and their impacts on local people in South-Eastern Cameroon, Symposium 'Beyond Enforcement: Communities, governance, incentives and sustainable usein combating wildlife crime', Glenburn Lodge, Muldersdrift, South Africa, 2015-02-27
⑲ Takanori, Oishi Land conflict in multi-ethnic context: trans-ethnic negotiation and cultural transmissions in the expansion process ofcocoa farming in southeastern Cameroon, The Forth Forum on “Comprehensive Area Studies on Coexistence and Conflict Resolution Realizing ‘African Potentials’ (Invited lecture), Tou'Ngou Hotel, Yaounde; Cameroon, 2014-12-05
⑳シンジルト　共にいられるわけ：内陸アジアにおける擬制親族・境界観念・自然認識、平成 22 年度～27 年度　長崎大学重点研究プロジェクト「持続可能な東アジア交流圏の構想に向けた人文・社会科学のクロスオーバー：「共生」概念の学際的統合にもとづいて」第 5 回（通算第 22 回）　マンスリーセミナー、長崎大学(長崎県長崎市)、2014-11-20
㉑奥野克巳　歩く家、告げ口する動物たち―非人間の主体性をめぐる文化人類学―、2014、立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科 2014 年度第 2 回公開講演会、立教大学(東京都豊島区)、2014-10-18
㉒Futoshi, Nishimoto Changing fertility patterns of the HDSS populations, The 8th Laos National Health Research Forum,ビエンチャン(ラオス国)、2014-10-16
㉓ Takanori Oishi Food diversity, interethnic relationships, and long-term sustainability of forest use in central African tropical rainforests, JSPS Symposium 2014: Long-term Sustainability through Place-based, Small-scale economies, Doe memorial library, University of California Berkeley, CA(USA), 2014-09-27
㉔飯塚宣子、山口未花子　北米先住民の自然との関わり方に学ぶ環境教育実践、日本環境教育学会第 25 回研究大会、法政大学(東京都千代田区)、2014-08-02
㉕ Oishi, T., Njouonkou, AL. Wild mushroom uses by the Baka and the Bakwele of southern Cameroon, The 14th International Society of Ethnobiology

Congress (Poster presentation), Lamai Gompa, Bumthang(Bhutan), 2014-06-07
㉖ Takanori, Oishi Psychosocial importance of forest life for the Bakwele farmers of southeastern Cameroon、 The 14th International Society of Ethnobiology Congress (Oral presentation), Lamai Gompa, Bumthang (Bhutan), 2014-06-02
㉗奥野克巳　殺される動物、殺す人の出現：サラワク・プナンにおける狩猟の組織化、分科会「動物殺しの担い手ができるまで」(代表：西本太）第 48 回日本文化人類学会研究大会、幕張メッセ国際会議場(千葉県千葉市)、2014-05-18
㉘西本太　分科会「動物殺しの担い手ができるまで」の趣旨説明、分科会「動物殺しの担い手ができるまで」(代表：西本太）第 48 回日本文化人類学会研究大会、幕張メッセ国際会議場(千葉県千葉市)、2014-05-18
㉙田川玄　狩猟・供犠・殺人：南部エチオピアの牧畜民ボラナ・オロモにおいて殺しの担い手となること、分科会「動物殺しの担い手ができるまで」(代表：西本太)第 48 回日本文化人類学会研究大会、幕張メッセ国際会議場(千葉県千葉市)、2014-05-18
㉚中野麻衣子　消えゆく悲鳴、「殺さない主体」と「見えない殺し手」の出現―バリにおける家内的屠畜の衰退と専業的屠殺人の成立、分科会「動物殺しの担い手ができるまで」(代表：西本太)第 48 回日本文化人類学会研究大会、幕張メッセ国際会議場(千葉県千葉市)、2014-05-18
㉛吉田匡興　動物殺しの担い手が「立ち現れるまで」、「立ち現れてから」 パプアニューギニア、アンガティーヤ社会における狩猟が成功するための条件、分科会「動物殺しの担い手ができるまで」(代表：西本太)第 48 回日本文化人類学会研究大会、幕張メッセ国際会議場(千葉県千葉市)、2014-05-18
㉜島田将喜　人類の狩猟とチンパンジーの「狩猟」についての一考察、第 67 回日本人類学会大会、国立科学博物館筑波研究施設(茨城県つくば市)2013-11-1‐11-4
㉝花渕馨也　ンガジジャ島の年齢階梯制、日本島嶼学会・2013 年次高知・柏島大会、大月町農村環境改善センター(高知県大月町)2013-9-7‐9-9
㉞奥野克巳　森との交感の民族誌 ―プナンにおける人と自然、第 46 回日本文化人類学会研究大会、広島大学(広島県広島市)2012-6-23、6-24
㉟山口未花子　語りだす遺体 ―カナダ先住民の動物利用に関する展示を通した成果の還元と研究上の意義、第 46 回日本文化人類学会研究大会、広島大学(広島県広島市)2012-6-23、6-24
㊱中野麻衣子　不可視の暴力と「バリ文化」：インドネシア・バリにおけるモダニズムをめぐる言説の一面、第 47 回日本文化人類学会研究大会、慶応大学（東京都港区）2013-6-8、6-9
㊲奥野克巳　動物殺しの論理と倫理、第 47 回日本文化人類学会研究大会分科会「動物殺しの論理と倫理」、慶応大学三田キャンパス(東京都港区)2013-6-8
㊳シンジルト　屠畜の新規範：中国西部における「人と動物」と「人と人」、第 47 回日本文化人類学会研究大会分科会「動物殺しの論理と倫理」、慶応大学三田キャンパス（東京都港区）2013-6-8
㊴西本太　動物が動物を「無駄に」殺すことはあるか？、第 47 回日本文化人類学会研究大会分科会「動物殺しの論理と倫理」、慶応大学三田キャンパス（東京都港区）2013-6-8
㊵大石高典　「殺す/殺さぬ」の位相：カメルーン東南部熱帯林における動物殺しを事例に、第 47 回日本文化人類学会研究大会分科会「動物殺しの論理と倫理」、慶応大学三田キャンパス（東京都港区）2013-6-8
㊶ Futoshi Nishimoto, Satoshi Kaneko, Jiang Honwei, Satoshi Yokoyama, Junko Okumura, Megumi Sato, Tiengkham Pongvongsa, Jun Kobayashi, Daisuke Nonaka, Akiko Sato, Kazuhiko Moji, Sengchanh Kounnavong, HDSS as a Platform of Integrated Transdisciplinal Area Studies、PNC Annual Conference and Joint Meetings 2013、Kyoto University(京都府京都市)
㊷大石高典　中部アフリカ都市住民の動物性タンパク質源確保と都市＝漁村関係：コンゴ共和国におけるコンゴ川産淡水魚の流通・消費を事例に、生態人類学会第 18 回研究大会、月ヶ谷温泉・月の宿(徳島県勝浦町)2013-3-16、3-17
㊸Oishi Takanori and Evariste FONGNZOSSI, Microhabitats in tropical mixed evergreen forest recognized by Baka hunter-gatherers of southeastern Cameroon: Folk concepts of vegetation change in comparison to modern ecological term of 'succession', 2012,The 13th Congress of the International Society for Ethnobiology, フランスモンペリエ市国際会議場 Le Corum, Montpellier(France)
㊹大石高典　アフリカ熱帯雨林における淡水魚の認知と利用－市場価値と生き物文化の関係をめぐる一考察、生き物文化誌学会第 10 回学術大会講演、福岡リーセントホテル(福岡県福岡市)2012-7-14、7-15
㊺大石高典　カメルーン東南部の狩猟採集民バカにおける社会文化変容―経済的不平等の発生と呪術/邪術に関わる言説空間の変化―、日本文化人類学会第 46 回研究大会、広島大学(広島県広島市)2012-6-23、6-24

〔図書〕（計 4 件）

①シンジルト・奥野克巳共編著『動物殺しの民族誌』2016 年、昭和堂、365 頁(1-12、209-245、

327-365）
②野田研一・奥野克巳共編著『鳥と人間をめぐる思考：環境文学と人類学の対話』2016 年、勉誠出版、391 頁（1-22、81-101）
③シンジルト編『狩猟の民族誌：熊本南部における生業・社会・文化』2014 年、熊本大学文学部総合人間学科社会人間学コース狩猟調査チーム、218 頁
④奥野克巳・山口未花子・大石高典・近藤祉秋共編『人と動物の人類学』2012 年、春風社、363 頁（vi-xvi、4-28、29-60、93-129、178-203）

〔その他〕
ホームページ等
http://www2.rikkyo.ac.jp/web/katsumiokuno/killing-animals.html

６．研究組織
(1)研究代表者
奥野　克巳（OKUNO, Katsumi）
立教大学・異文化コミュニケーション学部・教授
研究者番号：50311246

(2)研究分担者
シンジルト（SHIN jilt）
熊本大学・文学部・教授
研究者番号： 00361858

山口　未花子(YAMAGUCHI Mikako)
岐阜大学・地域科学部・助教
研究者番号：60507151

西本　太(NISHIMOTO Hutoshi)
長崎大学・グローバルヘルス研究科・助教
研究者番号：60442539

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：

(4)研究協力者
（　　）